

茨城県の COVID-19 入院患者に関する情報収集、重症化率における発症から気管挿管までの期間と予後の解析

研究分担者 安田 貢 国立病院機構水戸医療センター救急医療部、茨城県医療統括監

研究協力者 下條 信威 筑波大学医学医療系救急・集中治療科

研究要旨

茨城県における COVID-19 患者の症状発症から重症化までの期間に着目しその予後予測を立てることを大目標とした。現在、途中報告であるが、発症から重症化（気管挿管）までの日数が短い症例は死亡率が高い傾向があること示された。

A. 研究目的

茨城県における COVID-19 陽性患者情報をもとに、重症患者における発症から気管挿管までの期間とその予後の関係を解析する。

B. 研究方法

茨城県入院調整本部（安田 貢本部長）に集まる COVID-19 陽性患者情報をもとに関係医療機関と協力し、重症患者情報を収集整理し、解析を行う。第一波 168 例（2020 年 3 月～5 月診断）、第二波 602 例（2020 年 6 月～10 月診断）、第三波 6003 例（2020 年 11 月～2021 年 3 月診断）を解析した。重症患者入院医療機関と連携するため、データ通信システムを立ち上げ、そこに集まる情報を参考にした。重症患者の解析には、治療法が安定した第三波の患者を用いて解析した。

重症患者生存患者の重症化病日（発症から気管挿管までの期間）と挿管日数をグラフ化し、重症化病日を 3 群（1-5 日群、6-14 日群、15-20 日群）に分けて解析した。まだ解析途中であるため、統計学的な評価は行っていない。

C. 研究結果

茨城県におけるコロナ禍、第三波の全 COVID-19 陽性患者 6003 例のうち重症者は 98 例、全陽性

者中の 1.63%であった。年齢は平均値 70.3 歳、中央値で 71.5 歳であった。男女比は 75 : 23 であった。

表 1. 各群患者の特徴

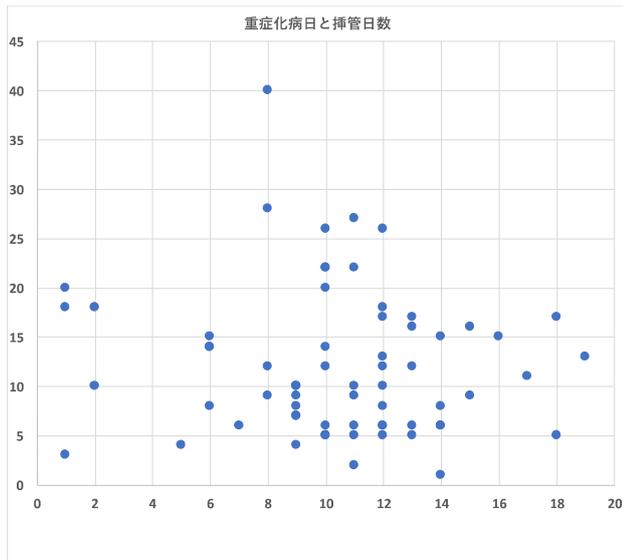
重症化病日	重症患者数	重症化病日		年齢		男性比
		平均値	中央値	平均値	中央値	
全体	98	10.3	10	70.3	71.5	76.5%
1-5日群	11	2.9	3	75.6	79	72.7%
6-14日群	70	10.3	10	69.0	70	77.1%
15-20日群	10	16.4	16	72	73	70.0%

各群間で特に大きな違いはなかったが、6-14 群でやや年齢は低い傾向にあり、15-20 日群でやや女性が多い傾向にあった。

表 2. 各群患者の予後因子

重症化病日	死亡率	ECMO導入率	挿管日数	
			平均値	中央値
全体	14.30%	5.1%	12.1	10
1-5日群	36.4%	9.1%	12.2	14
6-14日群	8.7%	4.3%	11.9	10
15-20日群	10.0%	0	12.3	13

1-5 日群で死亡率が高い傾向にあった。ECMO 導入率も高い傾向にあるが、n は全体で 5 と少ない。挿管日数には変化はなかった。



D. 考察・結語

COVID-19 陽性患者において、発症から重症化までの期間が短い重症患者の予後は悪い可能性がある。